

< 参 考 資 料 >
2015年6月17日
東京電力株式会社

HIC上のたまり水発生・蓋ベント孔確認の 進捗状況



東京電力

概要

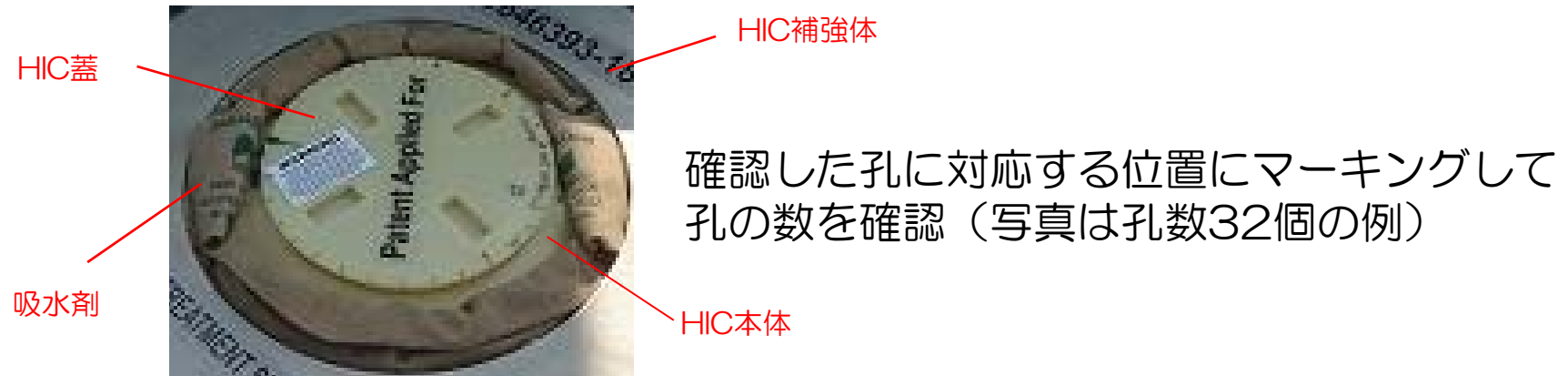
- 4月2日のHIC蓋外周部でのたまり水発見をうけて、他にたまり水の発生がないかの確認を実施
 - 保管期間の長いもの、線量の高いものなどたまり水発生リスクの高いものを多く格納している吸着塔一時保管施設（第二施設）の点検が完了
 - ◆ 保管数684基中、たまり水の確認されたもの：30基
 - ◆ ボックスカルバート内に水が到達したもの：追加発生なし※1
 - ※1：4月2日発見の一箇所のみ（外部への汚染拡大なし）
 - 引続き、第三施設について優先度の高いものについて点検を実施

- 点検過程で蓋にベント孔のないものが発見されたことをうけて、ベント孔の数に関する確認記録がないものについて、確認を実施
 - 第二施設の点検完了。対象478基中、孔数に過不足がある蓋：17個※2
 - 第三施設の対象28基の点検を継続中

※2：蓋を取り外さない状態で確認しており、ベント孔が蓋ねじ溝部に隠れる等して、全数を視認できていないもの7個を含む

保管中HICの蓋ベント孔点検進捗状況

- HICのたまり水点検に併せて、蓋のベント孔の有無及び個数確認を実施
- 6月15日をもって第二施設保管分の確認を完了



蓋ベント孔の数の記録がないものの点検状況

2015/6/15現在

カテゴリ	製造段階における確認・記録	第二施設保管基数		第三施設保管基数	合計
		タイプ1	タイプ2		
I	ベント孔の確認未実施。 記録なし	102/102	136/136	8/24	246/262
II	ベント孔の確認は実施。 記録なし	143/143	97/97	0/4	240/244
合計		478/478		8/28	486/506

注：第三施設保管品は全てタイプ2である。

蓋ベント孔の点検結果について

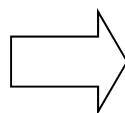
ベント孔の数に過不足が認められたHIC蓋 (第二施設保管の点検対象478個中)

本来あるべき孔数	16							32					
確認された孔数	0*	(8)	(12)	14	15	(15)	17	(0)*	29	(29)	31	(31)	33
個数	1	2	1	1	3	1	1	1	1	1	2	1	1

- HIC内から、ふた（ベントフィルタ、ベント孔）を介して外気までの水素拡散計算を実施した結果、所定数16個の場合で4個以上、同32個の場合で14個以上の孔があれば、水素濃度を爆発下限以下に抑制可能と評価。
- 孔が無いもの(※)⇒交換実施済み（下写真）。後日、孔を追加工した元の蓋に戻す。
- 孔が無いもの(*)⇒遮へいゴムマット付きでありベント孔を視認できず。
(状況は次頁参照)
- 孔が不足のもの⇒孔を所定数まで追加工する（準備中）。
- 点検で一部の孔が視認できなかったもの（上表で括弧付きのもの）。
⇒ネジ溝内に隠れていて視認できなかった部分を、今後ふたを緩めて確認。



交換したベント孔なしの蓋



交換した蓋

遮へいゴムマット付きHICについて

- 2014年4月16日、既設多核種除去設備吸着塔メディア抜き作業時に排出先のHICに溢水が発生し、HIC表面が汚染。
- 拭取りによる除染後の、線量抑制／汚染拡大防止のため、遮へい材として上面へのゴムマット貼付を計画。
- 2014年8月22日、補強体上面とHIC蓋に接着剤を塗布しゴムマット貼付完了。
- 2015年1月19日、既設多核種除去設備建屋より保管施設（第二施設）へ搬入。
- 2015年6月13日、蓋ベント孔点検にて換気孔を確認できず。*
- ベント経路を確保するため改修予定。

※：当該HIC内の水素濃度は約0.1%と評価され、爆発限界（4%）を十分下回ることを確認



遮へいゴムマット

《対象HIC》

列別番号：PO625899-325

内容物：Sr吸着材（脱水済み）

表面線量：0.09mSv/時